

# 「納体袋」コロナで増産

## ウイルス遮断し遺体密封



ウイルスや液体を完全密封できる透明の袋と、丈夫なグレーの袋を組み合わせて使うことが多い川尻工業の納体袋

(阿部裕貴撮影)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、札幌市白石区の医療器具販売「川尻工業」(川尻祥明社長)が開発した「納体袋」が、全国の自治体や病院の注目を集めている。遺体を納め、ウイルスや空気を通さない特殊な構造が、医療関係者や葬儀業者の感染防止に効果的だと評価され、12月は既に例年の4倍近い3千枚の注文があった。川尻社長は「医療現場などの不安解消に少しでも役立ちたい」と話している。(内山岳志)

納体袋は元々、検視や司法解剖が必要な遺体の搬送や保管のため、警察や大病院などで使われてきた。全国でも数社しか製造しておらず、川尻工業は2010年に警察関係者からの依頼を受けて開発した。空気や液体を完全に密封できる透明のポリエチレン製の袋に遺体を納め、耐久性が高い塩化ビニール製のグレーの袋を上から重ねて使うことが多く、注文数な

### 厚生省が方針

厚生労働省は今年2月、新型コロナウイルスで亡くなった人の遺体は「全体を覆う非透過性納体袋に収納・密封することが望ましい」との方針を示した。ウイルスを通さず死者のプライバシーにも配慮できる納体袋は「ウ

## 札幌の製造会社 全国から注文4倍

ウイルスを拡散させずに搬送できる」と評価され、注目が高まった。川尻工業への注文も急増しており、3月29日にコメディアン志村けんさんが新型コロナウイルスで死亡し、遺体の搬送時の感染対策に世間の関心が集まった際にも「1日400件の問い合わせがあった」(川尻社長)という。

### 月3千枚限界

同社にはこれまでに札幌市のほか、神戸市や福岡市など全国約20の自治体から注文があり、病院などで使用されている。従業員総出で増産しているが、接着など手作業の部分も多く、月3千枚程度の製造が限界で、現在は医療機関や自治体に限って注文を受けている。

川尻社長は「注文数は新型コロナウイルス感染者の死亡数に直結しており、怖さを実感している。二次感染を防ぐため、安定供給に最善を尽くしたい」と話した。

新型コロナウイルス

新規感染者数は再陽性性を含む  
延べ人数 札幌市内はステージ4  
相当



1人が感染し、計301人になったと発表。旭川市の